

# 碧雲通信

発行日 令和 5 年 3 月 2 1 日  
 発行者 宍道 高校 通信 制 課程  
 松江市宍道町宍道1586  
 TEL 0852-66-7577・FAX 0852-66-7117  
 印刷所 (有) 木 次 印 刷

【碧雲通信名前の由来】 たなびく雲の下にあお(碧)く輝く宍道湖を、江戸時代の文人・菅茶山は「碧雲湖」と名づけ、その美しさを称えました。これを新しい高校の通信誌名として拝借しました。

## 祝 卒 業 ~通信制課程で学んだ145名が巣立っていきました~

Congratulations!



### ▶ 3月号の掲載内容

- |                 |                            |
|-----------------|----------------------------|
| ○祝 卒業           | ○教育開発部より                   |
| ・ 式辞…………… (2)   | まなびのキセキ☆発表会が開催されました…… (11) |
| ・ 祝辞…………… (3)   | ○教務部より                     |
| ・ 送辞…………… (4)   | 令和6年度 受講手続きについて…………… (12)  |
| ・ 答辞…………… (5)   | ○総務部より                     |
| ○合格体験記…………… (6) | 令和6年度 始業式並びに着任式について…… (12) |

ホームページ <https://www.shinji-h.ed.jp>



## 式 辞

令和6年3月10日

島根県立宍道高等学校長

石 原 学

和らぎはじめた日差しの中に、早春の息吹が感じられる今日の良き日、島根県高等学校定時制・通信制教育振興会会長 成相安信様、F T A会長 森下 美津子様をはじめ、ご来賓の皆さま、ご家族の皆さまのご臨席いただき、卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。高段からではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、定時制課程44名、通信制課程145名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。今、一人ひとりに卒業証書を渡しました。この卒業証書にはみなさんが学び続けてきた努力の結晶が詰まっています。まずはこれまで頑張ってきた自分自身をほめてください。特に新型コロナウイルス感染症の拡大により、行事や部活動など高校生活の多くが制約を受けた中、本当によく頑張りました。そしてみなさんを支えてくれた家族、友達、先生方に「ありがとう」の言葉や心からの感謝の気持ちを伝えてください。

今、卒業生189名が189通りの旅立ちを迎えています。心理学者であるアルフレッド・アドラーは『人間は自分の人生を描く画家である。あなたをつくったのはあなた。これからの人生を決めるのもあなただ』といっています。

今日ここを旅立つみなさんに二つの言葉を贈りたいと思います。

一つは「常に心の回復力を高めよう」です。すべてはトライ＆エラーです。自分の思い通りにいくことばかりではありません。失敗することが多いかもしれません。ただ、どんな困難にぶつかってもしなやかに回復し、乗り越える力、逆境や困難から立ち直る「打たれ強さ」を身につけてください。強い自分も弱い自分もあなた自身です。どんな自分でも大丈夫だと肯定することで折れない心を育ててください。

二つ目の言葉は「恩送り」です。みなさんは多くの人から支えられ、助けてもらい、たくさんの恩恵を受けて今日（こんにち）の自分が存在します。今度は自分が今まで誰かにもらったそのご恩を、他の誰かに渡し、贈ることでこれから出会う人が少しでも笑顔になり、他の誰かの役に立てる、そんな人になってください。

宍道高校に入学し、様々な経験や多くの人との関わりを通して今のあなたがあります。

そしてこれからの新たなステージでどのように成長し、自分の未来を切り開いていくのか。今まで以上に個性を大切にし、自分の良さに気づき、自分を大切にしてください。それができれば、自分の周りの人の良さにも気づくことができるでしょう。これからは、自分を生かし、周りの人の良さや個性にも気づき、周りの人と協力し高めあってほしいと思います。

最後になりましたが、ご家族の皆さまに、心からお慶びと、これまで本校教育に深いご理解と温かいご支援をいただきましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

結びに、今年度の生徒会誌「碧雲」の巻頭言で記した言葉。

「いつも『人生、上出来だわ』と思い、うまくいかないときは『自分が未熟だったのよ』でおしまいにする。『こんなはずでは』と思うとき、他人の価値観や誰かと比較してそう思うだけじゃないのか考えた方がいい。本人が本当に好きなことができていて、『ああ、幸せだな』と思っていれば、その人の人生はキラキラ輝いていますよ。」



## 祝 辞

令和 6 年 3 月 10 日

島根県定時制・通信制教育振興会々長

成 相 安 信

春の草花があちこちで咲き始め、温かい春の日差しに包まれて、心躍るような良い時候となりました。

本日ここに沢山の御来賓をはじめご両親、ご家族のご臨席のもと盛大に卒業式が挙行され、心からお祝いとお喜びを申し上げます。

まずもって卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

また、ご両親をはじめ、ご家族の皆様には心よりお喜び申し上げます。おめでとうございます。そしてこの卒業式を迎えるまで、生徒の皆さんを育み、ご指導いただいた校長先生はじめ教職員の皆様には、感謝と敬意を申し上げます。

皆さんを見守り応援させていただいてきた私達振興会として、本日の皆さんの晴れの卒業式に臨ませていただくことは無上の喜びであり、189名という過去最も多くの卒業証書を手にされた皆さんをととても誇らしく感じております。

さて卒業生の皆さんは、晴れてここに卒業の栄誉に輝き宍道高校を巣立つ日を迎えられました。皆さんの胸に去来する宍道高校での学校生活はどのようなものだったでしょうか。

あいにくコロナ感染症が蔓延し、皆さんの高校生活は何かと制限が加えられ、窮屈で味気ないものになることも多かったかもしれません。しかし、そうした様々なことを乗り越え歩み続けられた結果、見事に卒業という栄誉を今こうして手にされ目標を達成されたことで、充実感と満足感がいっぱいとなって感慨もひとしおのものがあると思います。

起伏の多い道のりであっても、皆さんは決して後退することなくいつも前向きでした。勉学はもとより、学校の諸行事、生徒会活動、文化部や「全国定通体育大会」などにも積極的に参加され、皆さんがそれぞれに刻んでこられたこれまでの足跡は、先輩たちに負けない宍道高校の新たな歴史を作るにふさわしい1ページになりました。

しかし一方、皆さんが過ごした日々は、必ずしも平坦ではなく、挫折や不安、あるいは迷いの中で苦しみ日もあったことでしょう。途中でもうやめてしまおうかと思ったことも一度ならずあったのではないのでしょうか。そうした時は必ずやご家族の支えや、先生や友人、周囲の人達の温かい励ましや助言に助けられたのだと思います。毎週送られてくるレポートの添削も、朱色で先生の励ましの言葉が添えられて、先生に直接励まされた、元気づけられたことも度々あったことと思います。

頑張りぬいた皆さんに、あらためて賛辞の言葉を送りたいと思います。

我が国は、急速な少子高齢化により著しく人口減少が進行しています。それだけに若い皆さんは、これから職場でも力強い戦力として迎えられるばかりではなく、地域社会でも色々な局面で様々な役割を担い社会的貢献活動をしてもらえるよう期待されると思います。宍道高校で学び頑張りぬいたことを思い起こし、誇りと自信をもって地域のために、何ができるかを自ら考え、行動していただきたいと思います。

また、時代は大きく変遷し、情報通信技術の飛躍的な進展と人工知能を駆使した技術革新と応用範囲の拡大が進み、また、地球温暖化対策など産業構造や雇用の形態、従前の価値観も大きく変わろうとしています。進化する時代に取り残されないよう、これまでになく社会人になってからも学び続けねばならないわけです。どうかさらに頑張って、大きな可能性にチャレンジしていきましょう。

宍道高校で、皆さんは諸先生との良き師弟関係を作りあげ、同級生や下級生の皆さんと深い友情を育んでこられたと思います。

卒業される皆さんは、それぞれ進学や就職で別々の道を歩むことになりますが、ご指導いただいた諸先生のことを忘れずに、また、築きあげた友情をこれからも大切に、そして後に続く後輩を見守り、励まし、皆さんが多くの人に応援してもらったように、今度は皆さんが宍道高校を見守り応援していただきたいと思います。今日まで育ててくださったご両親やご家族に、そして皆さんと関わり励ましや応援をしてくださった皆さんに感謝の思いを伝え、忘れないでください。

最後になりますが、新たな夢や、希望に向かって皆さんの前途は可能性に満ち洋々としています。宍道高校の卒業生である事に誇りを持ち、努力を惜しまず、失敗を恐れずいつも前をむいて歩み続けてくださるよう心から願っております。

私たち後援会は、今日新たな門出となる卒業生の皆さんを、これからも変わらぬ応援を致し見守ってまいります。皆さんのご健康と一層のご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

**本誌にて確認ください**

## 送 辞

令和6年3月10日

在校生代表

**本誌にて確認ください**

冬の厳しい寒さも和らぎ徐々に春の暖かさが感じられる季節となりました。

本日、晴れて卒業式を迎えられた皆さま、ご卒業おめでとうございます。皆さまが宍道高校での全課程を終え、新たな道へと進まれることを在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今皆さまは宍道高校で過ごした高校生活をどのように振り返っておられるでしょうか。多くの人との出会い。宍道高校ならではの貴重な体験。きっと、思い出は十人十色であろうと思います。

定時制課程の皆さまは、雨の日も風の日も雪の日までも学校に来て自分の所属する部での90分の授業をうけたこと。アルバイトとの両立の中で、時には睡魔に襲われることもあったでしょう。

通信制課程の皆さまは、限りある授業の時間を大切に、計画を立てながらレポート作成に励んだこと。自主学習の厳しさの中で、自分自身と向き合うことも多かったことと思います。その他にも、先生方とのやりとり、多目的ホールでの他愛ないおしゃべりなど、当たり前を感じていた日常も、今となってはかけがえのないものになっているのではないのでしょうか。

私達在校生にとっても、常にお手本となってくださった先輩の背中や、先輩達と過ごした日常は、かけがえの

ないものとなっています。

今日に至るまでの道のりは、決して楽なものではなかったと思います。勉強に悩み、友人関係に悩んだ時もあったでしょう。時にはすべてを投げ出したいと思うときもあったと思います。それでも側にいてくれた仲間たちと励まし合い、切磋琢磨し合いながら成長してこれたのではないのでしょうか。

これから先、先輩達の行く手には厳しい壁が待ち受けています。このような時代に自分を失うことなく、夢の実現に向かって進んでいくことは容易なことではないでしょう。しかし、先輩方がこれまで乗り越えてきた苦難や仲間との楽しい思い出、この学び舎で培った様々な力が、皆さまを支え、勇気づけてくれることでしょう。宍道高校での経験を生涯の宝とし、信念を持って未来を切り拓いていってください。

私達在校生一同、先輩方が築き上げてこられた伝統を受け継ぎ、宍道高校をさらに発展させる覚悟です。先輩方のこの母校、宍道高校をいつまでも忘れることなく温かく見守り、ご支援くださいますよう心からお願い申し上げます。

最後に卒業生の皆さまのご健康と、さらなるご発展を心よりお祈り申し上げ、送辞といたします。





**本誌にて確認ください**

## 答 辞

令和6年3月10日

卒業生代表

**本誌にて確認ください**

桃の爽やかな香りが漂い、寒さの中にも春の息吹を感じる季節となりました。

本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な卒業式を挙げていただき、卒業生一同、御礼申し上げます。

また、先程は校長先生をはじめ、ご来賓の方、在校生の方から、温かい祝福と励ましのお言葉をいただき、身の引き締まる思いです。

今、思い返すと宍道高校には沢山の思い出があり、卒業が寂しいと思うほど、とても大切な場所になりました。

私は中学生の頃に不登校になりました。学校に行こうと何回も登校したのですが、学校に馴染めず、同級生の皆と授業を受けたり、学校行事に参加したりなど、学校に通っていた時は普通だと思っていたことが出来なくなりました。そのことに落ち込むこともあったのですが、今出来ていること、これから出来ることを大切に考えて過ごしていきたいと思えたきっかけになりました。中学校を卒業後、宍道高校に通えることとなったので、高校でやってみたいこと、不登校の時に出来なかったことに積極的に挑戦していきましました。

初めに挑戦したことは、出来る限り全ての授業に出ることです。最初はなかなか計画通りにいかないことや、風邪を引いて熱が出てしまい登校することができませんでした。ですが、登校し続けたことで、分からなかったレポートの問題を解くことができました。また、先生方に顔を覚えていただいたり、廊下で話しかけて下さったりと、関わる機会が少なかった先生方との距離を縮めることができました。

二年次の時には、生徒会の役員を務めました。入ったばかりの頃は、知らない人ばかりで何をしたら良いかわかりませんでした。活動していく中で仲間に声を掛けに行ったことで打ち解けることができたのだと思います。なかなか日程が合わず参加できないことも多かったのですが、碧雲祭の準備で夜遅くまで学校に残ったり、碧雲祭が終わり、全てを片付けた後に貰ったバラパンの嬉しさだったり、定時制の皆さんと関わることもできたのは、生徒会執行部に入ることができたからだだと思います。

三年次になり、最後の碧雲祭で思い出を作りたいと思い、和楽器の琴でステージ発表に挑戦しました。普段は古典の曲しか弾くことがないのですが、初めて現代曲を一人で弾きました。緊張してしまい、所々間違えてしまいましたが、ステージ発表をした仲間の皆さんと話した

り、連絡先を交換したり、普段触ることがない楽器を触らせてもらったりしました。とても楽しく過ごすことができ、大切な思い出を作ることができました。

そして、最後に大学受験に挑みました。出願に必要な書類の作成と、面接練習を沢山しました。何度も何度も書いては消してを繰り返したり、書きたいことが上手くまとめられず深夜になったりしました。また、面接練習では、緊張して言葉が出てこなかったり、どのようなことを話したら良いのかと悩んだり、自己分析をしていく中で自信を無くしたりと、とても苦戦しました。ですが、学校に行く機会が増えたことで、少し苦手だった職員室に行けるようになったり、先生に質問に行くことができたり、自分では気づけなかった長所を言っていただし、少し自分に自信を持つことができました。

挑戦するという行動をしていなかったら、不安や緊張をせずに気楽に過ごすことが出来ていたと思います。ですが、心が温かくなるような出来事や、挑戦していく過程で嬉しい、楽しいと感じることもできなかったと思います。そして、楽しいと感じれたからこそ次のことに挑戦してみたいという気持ちや、不安や緊張を乗り越えたからこそ、自分に自信を持つことができたのだと思います。

こうしたことに挑戦できたのは、先生方や友人、家族の支えがあったからに他なりません。先生方が親身になって対応してくださったり、私たちを温かく見守ってくださったりと、何事にも挑戦できる環境を作ってくくださったから、挑戦してみようという気持ちになれたのだと思います。また、レポートにメッセージを添えてくださったりと、大学に合格した時に自分のことのように喜んで下さったり、とても嬉しかったです。本当にありがとうございました。

また、友人は、沢山相談に乗ってくれたり、私が緊張していたら、応援をして背中を押してくれたりしました。そのおかげで、様々なことに挑戦すること、楽しく高校生活を送ることができたのだと思います。本当にありがとうございました。

そして、家族へ。いつも支えてくれてありがとう。これからも一生懸命努力していくので、温かく見守ってけると嬉しいです。

今日よりも明日、明日よりも明後日と少しずつでも良い方向に進んでいけるよう、宍道高校で得た経験を忘れずに、日々自分らしく挑戦していきたいと思います。

最後になりましたが、宍道高校の更なる発展と在校生の皆様のご活躍を心からお祈りし、答辞といたします。

# 令和5年度卒業 合格体験記

## 『私の合格体験記』

令和5年度卒 定時制

A・M

(大阪芸術大学 芸術学部 デザイン学科)

私は、小さい頃から絵を描くこととゲームをすることが好きで、ゲームクリエイターのデザイナーとして働きたいという希望があります。芸術系の学校に進学するためには、筆記試験だけでなく、デッサンなどの実技試験があるところもあると知り、1年次の秋から画塾へ通い始めました。最初は知識も技術もなく上手に描くことができませんでした。十数枚描いても周りのレベルに追いつけず、自分には向いていないのかもしれないと思ってしまうこともありました。早く周りのレベルに追いつかなくてはならないと考えていたのだと思います。ずっと通っていた人にすぐに追いつくことができるわけがないと自分に言い聞かせ、塾でも家でも一生懸命描きました。少しずつではありましたが、確実に上達していく手ごたえがありました。モチーフの質感の描き分け、陰影のつけ方、構成などただ目の前にあるものを描きうつすのではなく、たくさんの知識が必要で、絵って勉強みたいで面白いなと思い、絵を描くことがもっと好きになりました。

試験当日はとても緊張しました。いつも通り落ち着いて描こうと思っても、鉛筆を持っている指先から腕まで緊張で震えが止まりませんでした。次の日は右手全体が筋肉痛でした。変な力が入ってしまったせいだと思います。試験会場に行くとそれくらい緊張します。周りの人が自分よりすごく優秀に見えました。

2週間後に届いた通知書を開封するのはとてもドキドキしました。「合格」。本当に飛び上がってしまうほどうれしく、安心した気持ちでいっぱい

になりました。これまで努力してきたことが成果となった瞬間でした。勉強できる環境を与えてもらったこと、メンタル面を支えてもらったこと、感謝してもしきれないほどです。

努力して手に入れた「合格」。これからの4年間を大切に、実りあるものにしていきたいと思います。

## 『僕の小規模な計画』

令和5年度卒 定時制

**本誌にて確認ください**

(広島経済大学 経営学部 経営学科)

入学した時から「おもしろそう」という好奇心を大事に高校生活を送ってきました。そして、自分にとってこの「おもしろそう」を継続させるには進学することだと思いました。

進学すると決意した時から、私は毎日登校すること、定期テストでは平均80点以上を取り続けることを目標にしました。これまで、規則正しく毎日早起きをするとか、継続的に勉強するとかという習慣がなかったので、定着させるまでは苦しく、諦めようと考えた時もありました。ですが、授業を受けるたびに新しい知識を得られることの楽しさ、試験でよい点を取った時の達成感、喜びが私を応援してくれて、4年間努力し続けることができました。


自分の経験から、これから進学を目指す方たちに伝えたいことが2つあります。

1つ目は同じ目標を持っている友達や先輩を見つけることです。周りに就職希望者が多い中で、1人で勉強するのはしんどいです。わからないところを教えあったり、悩みを話したりして、仲間の頑張りが励みになりました。また、息抜きの

共有もいい時間になりました。

2つ目は自分に合った勉強法を見つけることです。自分に合った方法で効率よく楽しく勉強するのがお勧めです。私は数学や理科のようによく考えないと解けない教科を頭がさえているうちに先にやって、英単語や地歴、家庭科などを後からやる方法が 있었습니다。暗記が得意なので、少し疲れていても覚えることができました。

高校生活の中でやれることはたくさんあります。日々の積み重ねが結果につながります。全力で今を生きましょう！



### 『私の卒業までの物語』

令和5年度卒 定時制

N・A

(岡山理科大学専門学校 動物飼育トレーニング学科)

私は動物が好きで、将来は動物と触れ合える仕事がしたいと小学生のころから思っていました。2年次生の後期頃から将来について考えるようになり、高校卒業後は専門学校に進学し、資格を取って動物園の飼育員になると決めました。進学するならば今のままではダメだと思い、休まずに学校へ行くこと、そして勉強を頑張るようになりました。3年次生になると、具体的な学校を調べるようになりました。

私は県外の学校に出ることは絶対だと両親に話していました。母からはあまり遠くに行ってほしくないと言われて少し悩みました。母の要望も受け入れたいと思い、広島と岡山の学校を候補に絞りました。オープンキャンパスに行き、決めようと家族で話し合い、3年次の秋に両方ともオープンキャンパスに参加しました。両校とも明るく楽しい学校だなと思いましたが、授業内容や設備面を比べ、岡山の学校に決めました。

そこからはすぐに試験の準備に取り掛かりました。4年次の夏にAO面談がありました。待合室ではすごく緊張してガチガチでしたが、父が「絶対受かるから大丈夫」と言いながら笑わせてくれ

ました。そのおかげで緊張せずに面談に臨むことができました。10月には合格通知が届き、本当に父には感謝しています。

合格後、専門学校から課題が出ました。ベーシック（理科）講座とコミュニケーション講座の2種類で、ベーシックは中学高校の理科の内容でした。授業のあと7時くらいまで残って課題に取り組みました。テスト期間と重なりましたが、計画的に取り組んで期限までに提出することができました。

今思うと、もっと早くオープンキャンパスに行っておけば、もう少し余裕をもって受験に挑めたかなと思います。4月からも勉強が続くので、勉強の習慣は継続しておこうと思います。



### 『自信と成長』

令和5年度卒 定時制

O・M

(大阪ウェディング&ブライダル専門学校)

私は2回目の4年次生です。1回目のときは、卒業後にやりたいことも決まっておらず、CCPの面接練習は、何を話せばいいのかわからないし、緊張して頭が真っ白になり、嫌で嫌でたまりませんでした。

ですが、今年は去年のことが嘘のように、冷静にすらすらとこたえることができました。1年かけて将来自分が何をしたいのか、進路をどうするのかを考え、決めることができたので、話せるネタが多くなり、少し自信が持てるようになったからだと思います。

自分に自信を持つということに対して難しいと考える人も多いと思います。私も自信を持つということに対してずっと頭を抱えていました。私の中の成長は、常に自信を持つ必要はないと気づけたことかもしれません。自信が持てない部分の自分を受け入れることができたことで、成長した部分に気づいた気がします。今年は部活動にも入り、昨年と比べると楽しいと感じる時間が増えました。

今自分では気づけていないだけで成長しているところがまだあるように感じています。その成長に気づいて、もっともっと自信を持つことができるよう、一日一日を大切にしていきたいと思っています。

これから進路決定に向かうみなさん、すべてに自信を持つ必要はありません。少しでも自信が持てるところがあれば、勘違いでもいいのでそれを大きな自信にしてください。心にゆとりがない時こそ、少しでも自信を持つことで心にゆとりが出て、良い方向に向かうと思います。みんな、笑顔を忘れずに！



### 『内定までの軌跡』

令和5年度卒 定時制

**本誌にて確認ください**

(北陽工業株式会社 (県内))

高校入学当初は将来のことは深く考えていませんでしたが、4年次生になって、自分が何になりたいのかを真剣に考えるようになりました。中学生のころからフィギュアが好きで、いくつか持っています。また石膏削りを趣味としていて、磨いた石がきれいになるところに楽しみを見出していました。就職活動で先生に勧められた職場が、船の部品を削る作業をするところだったので、その会社を目指して進むことに決めました。応募前職場見学に担任の先生と一緒にいき、工場の方からお話を伺いました。工場内を見学した後、担当の方から企業理念や仕事の内容を聞きました。自分からたくさん質問することができたので、この日はとても充実した一日になりました。

応募する企業が決まると、履歴書を書きました。何度も何度も書き直し、先生に見せに行くという日々が始まりました。やっとの思いで清書が出来上がっても「もっときれいに書いて」と言われて、最初からやり直したこともありました。ようやく履歴書が完成した時はホッとしました。しかしそれも束の間で、今度は面接の日々がスタートしま

した。私は午前部ですが、毎日家に帰るのは5時を過ぎていました。

受験当日は、たくさんの先生方に面接練習していただいたその成果を発揮する時だと思いました。本番では想定していない質問を受け、また緊張もあり、きちんと答えられているか自信がありませんでした。しかし面接官の方に「はきはき答えていいですね」と言っていただき、とても嬉しかったです。

一週間後に内定をいただいたときはとても嬉しく、履歴書の清書や面接練習を頑張ったよかったなと心から思いました。

これから就職や進学を目指すみなさん、面接では自分の言葉できちんと伝えることがとても大切です。CCPでの練習はもちろんのこと、本番前に多くの先生から指導していただくことで、できなかったこともできるようになるということ、私は就職活動を通して実感しました。



### 『積み重ねてきたことは力になる』

令和5年度卒 定時制

**本誌にて確認ください**

(株式会社キーレックス (県外))

1年次のころに先生から言われた「就職するなら休みは少ないほうがいい」という言葉を深く受け取り、2年次からできるだけ休まないようにしました。3年次になり、進学してみたいという自分の気持ちに気づき、就職か進学か迷うようになりました。そこでどちらの道に進んでも大丈夫なように、アルバイトと生徒会を始めました。

4年次生になり、いよいよ進路を決めないといけなくなりました。ギリギリまで迷っていましたが、自分の持つ進学への気持ちはすべて中途半端と思い、就職に決めました。県内か県外かで迷いました。生まれ育った島根を離れることに不安はありましたが、都会への憧れと、尊敬している兄から「一度県外に出てみるのは良いと思う。ダメになったら帰ってきたらいいよ」と後押ししても



らったこともあり、県外に挑戦してみようと思いました。

就職に決めてからは面接練習に力を入れました。練習の際、先生から「アルバイトの面接じゃないんだから、社会人としての心構えを作らないと」と言われ、改めて自分は中途半端な人間だと思い知らされました。しかし諦めずに練習を繰り返したことで、自信につなげることができました。

本番では、緊張に負けないようにハキハキと自分に自信をもって挑みました。面接官の方に「一番大きな声でハキハキと話している」と褒められ、練習の成果が出たと感じました。

やってよかったことはアルバイトと生徒会です。そして休まずに登校したことです。これらの活動を通して、コミュニケーション力がついたと思います。また、目標に向かって頑張ることで自分に自信が持てました。この頑張ったことが面接の際に、アピールのエピソードとなり話しやすくてよかったです。

これから進路活動をする方たちは、自分自身に自信をもって頑張ってください。応援しています。

### 『私が合格するために努力したこと』

令和5年度卒 通信制

#### 本誌にて確認ください

(島根大学 法文学部 言語文化学科)

島根大学のへるん入試を受験し、合格するために努力したことは3つあります。

1つ目は、自己分析をしたことです。面接は自分のことを知ってもらうための場所だと思ったため、マインドマップ形式で短所や長所など自分が思いつくことを沢山書いて分析していききました。分析していくほど自分に自信がなくなっていったのですが、沢山の先生方に面接練習をしていただく中で、私にしか出来ないことや、私の良い所などを話してくださり自信が湧いていききました。

2つ目は、自分が志望している学科の教授の論文を読み、自分がやりたいことや、それに近いこ

とを研究されているのかを調べていききました。その大学に入る理由をしっかりと話せるようにするために調べていききました。

3つ目は、面接に向けて沢山練習したことです。言いたいことを丸暗記するのではなく、面接でこの話は絶対に話したい、知ってもらいたいという部分を覚えていったことです。暗記をしてしまうと『えーと』などのつなぎ言葉を言ってしまうからです。また、思い出そうとすると、どうしても面接官から目を離してしまうからです。なかなかスラスラと話すことが出来ずとても不安に思っていたのですが、完璧に話すことが大切ではなく、自分の言葉で伝えることが大切だと友人や両親に教えてもらい少し心が軽くなりました。

皆さんへのアドバイスは、沢山の先生方と練習をし、自分に自信を持ち、本番では笑顔を忘れないことです。そうすることで面接官の方に好印象を与えて、覚えていてもらえると思います。

皆様が合格できますように応援しております。

### 『受験を終えて』

令和5年度卒 通信制

#### 本誌にて確認ください

(安田女子大学 現代ビジネス学部 公共経営学科)

高校2年生の秋に本格的に進路と向き合おうと思い、アルバイトを辞め、映像授業と参考書を使って私立大学を目標とした文系3教科の勉強を始めました。

志望校と受験方式を決めたのは3年生の7月です。気になっている大学のオープンキャンパスに参加し、大学や学科の説明を受け、10月の自己表現型選抜試験に向けて準備を始めました。夏休みはほぼ毎日学校に通って、志望理由書の作成から面接とプレゼンの練習、英語の添削を先生方にしただき、家族や周りの支えもあって、無事に合格することができました。

受験を終えた今、在校生の皆さんに伝えたいことは、高校生活の全てが進路に関わってくるとい

うことです。期末試験を真面目に取り組まず、学校行事等にも全く参加していなかった私は、評定平均が低くなり、面接や自己PRのネタも無くなり後悔しました。何事も真面目に取り組んでおけば、後々必ず有利に働きます。勉強はもちろん、学校行事やボランティア活動など、少しずつでもやってみることをおすすめします。

進路について考える中で大変なことも多いと思いますが、夢に向かって頑張ってください。良い春が訪れることを祈っています。

### 『一歩踏み出すことの大切さ』

令和5年度卒 通信制

**本誌にて確認ください**

（株式会社ひかわ（県内））

私は、3年次の頃からなんとなく就職しようと考えていました。ですが、気になる職種も見つからず、結局何も進まないまま3年次が終わり、4年次になりました。7月に入り求人票が公開されましたが、やりたいことが明確に決まっていなかったので応募先を決める時とても苦労しました。

その後は、先生に勧めていただいた「就職・進学講座」に参加しました。面接の受け方や履歴書

の書き方について講師の方々から教わり、これからすべきことについて知れたことで、今後に関する不安を解消できたのがとても良かったです。特に3日目のジョブフェアでは、様々な企業の説明を聞いたことで、自分の就きたい職種を明確にすることができました。

応募先が決まってからは、履歴書を作成し、面接練習に力を入れました。事前に質問に対する答えを考えていましたが、いざ自分の言葉で伝えようとすると上手く言葉にできず苦戦しました。ですが、先生方にたくさんのアドバイスを頂き、それをもとに家でも練習を重ねて、徐々に自信をつけていきました。

試験当日はとても緊張していましたが、面接官の方々の温かい雰囲気助けられ、自分の思いをしっかりと伝えることができました。

今までを振り返ってみると、先生に相談してみることや、就職関係の講座に参加した事がこの結果につながったと思います。在校生の皆さんも、できることから一歩ずつ踏み出してみてください。積み重ねた努力が必ず実を結び、良い結果につながります。応援しています。



教育開発部より

## まなびのキセキ☆発表会が開催されました

2月21日（水）に令和5年度「まなびのキセキ☆発表会」が開催されました。この発表会は、それぞれの「好き」や「楽しい」を取り上げて、授業や部活動などのグループ、あるいは個人が、自分で考えたりチャレンジしたりしたものを人に見たり聞いたりしてもらう発表会です。

当日は午前と午後に分かれて7グループずつ発表を行いました。今年は通信制から午前2組、午後2組の参加で、自分の好きなメイクや音楽についての取り組みや、自分の特性との向き合い方、周囲に理解してもらいたいことなどをまとめた発表を行いました。また、通信制から1人を含む14組の展示があり、今年もそれぞれ個性の光る発表となりました。

残念ながら今年も通信制からの聴講者はありませんでしたが、来年は是非、多くの人に観て聴いていただきたいと思います。



**本誌にて確認ください** さんの人形展示>

## 教務部より

## 令和6(2024)年度 受講手続きについて

4月7日(日)・8日(月) 場所: 宍道高校

受講手続きでは、学校徴収金の納入・レポートの受け取り・教科書等の購入があります。受講手続きを行わないと、令和6年度の学習活動ができなくなります。(隠岐協力校は別途連絡します)

**受付時間** ※今年度(R5)のルームごとの時間設定です。

7日(日) 9:00～10:00 = 7A・7B・科目履修生  
10:30～11:30 = 7C・7D・復活生  
13:00～14:00 = 6A・6B・6C  
14:30～15:30 = 6D・6E・6F  
8日(月) 9:00～10:00 = 5A・5B・5C  
10:30～11:30 = 5D・5E・5F・5G

必ず指定時間に受付をしてください。もし、都合がつかなければ担任へ連絡をしてください。

**持参するもの** 配布済みの資料(プリント)、黒ボールペン、  
お金(お釣りのないよう)、教科書やレポートを入れる大きな袋(カバン)  
※なお、事前に諸経費の口座振替が完了した方は教科書代のみ持参してください。

## 総務部より

## 令和6年度 始業式並びに着任式について

日 時 : 令和6年4月12日(金) 11:30～12:00

会 場 : 鳥根県立宍道高等学校 体育館

- ・新着任の先生方をむかえ、新年度のスタートを切ります。
- ・出席する人は、11:20までに体育館に集合してください。
- ・着任式・始業式の出席で「特活1時間」です。

※生徒の皆さんは、各自で上履きを用意してください。

なお、式の終了時にバーコードシールを提出します。忘れずに持ってきてください。

## 編 | 集 | 後 | 記

令和5年度もいよいよ終わりを迎えました。新型コロナウイルス、インフルエンザも感染状況はなかなか収まりませんが、手洗いや換気などの対応をしっかりと行いながら、令和6年度に向かいましょう。

さて、新年度に向けて、皆さん、準備はできているでしょうか。スクーリングやレポート、特別活動など、この一年を振り返ってみて、取り組み状況はどうだったでしょう。昨年度の3月号で、PDCAサイクルという考え方を紹介しました。PDCAサイクルとは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Act(改善)のことです。計画を立てて、実行する。その後に、成果を評価して、改善することを繰り返していくことです。これまでの時間、経験があつてこそ、今日に、そして明日へと続いていきます。この3月もまずは令和5年度を振り返り、成果とその成果に結びついた過程を確認(評価)して、より充実した一年となるよう、計画を立ててみましょう。文房具を買いそろえる、生活リズムを整える、断捨離、部屋の模様替え、小旅行、イメチェンなど、計画を立てたらそれぞれのやり方で自分を整えて、気持ちよく新学期を迎えましょう。宍道高校のモットーは「あせらず」「やすまず」「あきらめず」です。